

「一生の思い出 白石蔵王」

附属山口小 5年 吉田 康惟

8月8日、白石蔵王駅に到着した時には僕の興奮状態はマックスに達していました。従兄、祖母、叔母、母、妹と山小屋に泊まることへの期待でいっぱいだったのです。蔵王に植えてある僕の「マイツリー」との初めての対面も楽しみでした。

改札を出ると、大叔父が車で迎えに来てくれていました。この車は3年前に亡くなった祖父が最後に乗っていた車です。僕がまだ赤ちゃんの時に乗ったことがあり、10年ぶりの再会となりました。覚えているわけではないのに、懐かしいような気がしました。

車はどんどん山の中へ入っていきます。去年の宿泊学習で行った自然の家を思い出しました。蔵王はこけしの三大産地で、こけしの看板をいくつも見ました。いくつかの牧場も見えました。

山小屋までもう少しのところ、完成間近の手作りツリーハウスを見るため、車を降りました。木の上の夢の家は屋根をつければ完成というところまで来ていました。そのツリーハウスのはしごを上り下りして遊びました。雨上がりで、木が濡れていたの少し滑りました。

山小屋は標高700メートルぐらいのところにあります。雲に手が届きそうでした。遠くには海も見えました。

5時半ごろにいよいよ山小屋に到着すると、大叔母さんと仲村さんという山に詳しい方が待っていてくれました。この山小屋は丸太小屋なのですが、仲村さんや大叔母、大叔父とその仲間で作ったそうです。木を切り出したり、皮をむいたりするところから始めたそうです。

山小屋には、屋根裏部屋があり、そこにいくためのはしごや木の枝で作った足場もありました。結構急なので、最初は恐かったです。でも、慣れるとアスレチックみたいで楽しくなってきた、何回も何回も上り下りしました。

山小屋に着いてすぐに手を洗いました。とても水が冷たいので、大叔母に「何でこんなに冷たいの。」

と聞くと、

「この水、井戸水だからだよ。」

と言われました。そのとき、ちょうど汗をかいていたので、気持ちよかったです。

夕食は、バーベキューでした。雨が降った後で山小屋の中でした。大自然の中、みんなで食べた肉や野菜はいつもよりおいしく感じました。

夕食後、みんなで花火大会とスイカ割り大会をしました。久しぶりの花火にまず夢中になりました。なかなか火がつかなくて少しいらいらしましたが。スイカ割りは、目隠しをして三回まわってみんなの声だけを頼りにスイカを思い切りたたきました。目隠しを取ると、ひびが入っているのが見えました。スイカは井戸で冷やしてくれてとても冷たく甘くてとてもおいしかったです。

実は、仲村さんに、

「この井戸水に誰が一番長く手をつけていられるか子供だけで勝負したら？」

と言われていたので、子供3人で

「せーの、1、2」

と数えると、順位は1位が従兄、2位は僕、3位は妹でした。1分以上つけていたので、手が凍りそう

でした。

スイカを食べた後、大叔母に、

「種を飛ばしたり、皮を投げてもいいよ。」

と言われていたので、思い切り種を飛ばしたり、皮を投げました。普段は、行儀が悪いと叱られるから、余計に楽しかったです。

山小屋に入り、トランプ大会をしました。ばば抜きで、仲村さんが、

「俺、強いぞ。」

と言いましたが、決して自慢はできない結果でした。子供が抜けて大人だけで続けたとき、子供は誰が勝つか賭けをしました。大人数でのトランプ、少人数でやるよりずっと楽しかったです。

夜は寝袋で寝ました。大叔母に使い方を教えてもらい、屋根裏部屋で寝ました。寝る準備をしているとき、母が、

「こういうところでは、パジャマに着替えないで、そのまま寝るのだよ。」

と言いました。お風呂もなかったし、トイレは和式でさらに水洗ではないので、においもしました。

でも、僕は大丈夫。少し昔はこんな生活だったはずだし、非常時にも少し強くなった気がします。

次の日、朝日を見ようと午前4時半に起きる約束でしたが、天気が悪くて見られませんでした。見てみたかったです。

朝食後、彩遊の森、リスの森、アナグマの森と名付けられた森を回りました。

熊が木につけた生々しい爪の跡も見ました。熊は木の実をとりあえず取るだけ取って、その近くで座って食べるのだそうです。その場所のことを「熊の棚」というそうです。「熊の棚」の場所は僕にも分かりました。ここの熊は人を襲うことはない、仲村さんがそう言っていました。

森を見終わると、前日行ったツリーハウスで遊びました。そのとき、楽しかったので、なぜはしごを上り下りするだけで、そこまで楽しいのか、ふと疑問に思いました。

ツリーハウスの裏の森で僕と従兄は木登り、妹は木の枝に馬乗りになって、ゆさゆさして大喜びして



いました。

ツリーハウスの下に戻ると、大叔父と仲村さんが、ごろごろ横になっています。前日のお酒が残っていたようです。大叔父と仲村さんを起こすと、マイツリーを探しに行きました。僕のマイツリーは、「ミズナラ Y-31」でした。最初、「Y」の意味が分からず悩んでいると、「吉田」の「よ」＝「Y」だそうです。他にも祖母、亡き祖父、従兄、そして妹の木がありました。そのマイツリーは、元々はだれの木で



もありませんでしたが、1年前、僕の木になりました。

マイツリーを見た後、車で山小屋に帰る途中、柵があって、どうしてあるのか聞いてみると、心ない人が、珍しい植物を取っていったり、ゴミを捨てに来たりするからだということがわかりました。仲村さんは、

「本当はこんなことしたくないのだけど…。」

と話していました。

山小屋に帰り、次は流しそうめんです。

僕もいろいろな意見を出しながら、そうめんが上手く流れるように流す道具を調節しました。この道具は僕たちのために、仲村さんが竹を切ったり、割ったりして、準備してくれていたものです。流す道具をセットしている間、大叔母や母がそうめんをゆでたり、薬味を切ったりしていました。

僕たちの準備の方が早く終わったので、薪割りをすることにしました。最初は斧を振り上げると後ろの方へよろけてしまい、見ていた大叔父や仲村さんに笑われてしまいました。なので、僕の体重が軽すぎて、斧に負けてしまったのかな、と思いました。でも、振り上げずにやると力が入らず、なかなか割れません。気合を入れるため、得意の大声で、



「いやあ。」

と言っても割れません。が、少しだけ下の方にひびが入るようになった気がしました。

練習を何度も何度も繰り返していると、森に木を集めに行っていた従兄が帰ってきました。従兄に、「薪割り、結構楽しいよ。やってみる。」

と聞くと、

「うん。」

と即答し、交互に薪割りをやっていて、従兄の番になりました。すると、

「いやあ。」

と大声を出したと思ったその瞬間、パカン！と割れました。従兄に、
「すごいね。」

と言うと、従兄自身が驚いていました。

いよいよ生まれて初めての流しそうめんが始まります。いつものそうめんのはずなのに、水が冷たくておいしく感じました。僕の家水道水は冷たくないのに、そこまで水温の差があるとは思いませんでした。



意外とそうめんを取るのが難しく、苦労しました。

最後に、今後は従兄や妹と、そうめんを流すことになりました。とても面白かったです。



そして、第2次スイカ割りをしました。

僕はおなががいっぱいで、食わずに割るだけにしました。が、従兄が一発で割ってしまいました。みんな、薪割りの成果がでたのかも、そう話していました。

手突っ込みゲームをしました。結果は変わらなかった。次は勝ちたいです。

次に、木登りをしに、アナグマの森に行きました。木登りはとても楽しかったです。そして、山小屋を後にしました。

22時間ほどの滞在でしたが、山でしかできないことをたくさん経験しました。

山小屋での生活、あっという間の短い時間でしたが、楽しいことばかりでした。

屋根ができたツリーハウスでも一泊したり、また遊んでみたいし、マイツリーの成長を見てみたいです。

こんなに楽しい思い出を作ってくれた仲村さんや大叔父、大叔母、祖母に感謝の気持ちでいっぱいです。